

日本性科学会 ニュース

第39巻第1号

令和2年(2020年)3月

発行人: 大川 玲子 印刷所: 株式会社 縷文社

第49回セックス・カウンセリング研修会

期 日: 2020年5月31日(日)

会 場: お茶の水女子大学国際交流留学生プラザ多目的ホール(東京都文京区)

テ ー マ: 周産期のセクシュアリティ・セックスセラピー

研修会は現時点では開催予定ですが、今後の新型コロナウイルスの状況次第では、中止や延期の可能性もあります。

予定変更の場合、適宜ホームページや郵便にて連絡をしますので、ご注意をお願いします。

第40回日本性科学会学術集会

期 日: 2020年10月25日(日)

会 場: 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター(東京)

学 会 長: 針間 克己(はりまメンタルクリニック院長)

テ ー マ: Love and Gender Tokyo 2020

講演1. 松中 権(プライドハウス東京コンソーシアム代表、

認定NPO 法人グッド・エイジング・エールズ代表)

「プライドハウス東京 東京2020オリンピック・パラリンピックが残す
LGBTQのレガシー」

講演2. 坂口 菊恵(東京大学 教養学部附属教養教育高度化機構 特任准教授)

「文化と進化はヒトの性愛をどう変えるか」

シンポジウム1 「ICD11が示すこれからの性の健康」

シンポジウム2 「恋愛と性暴力の境界」

Vol. 39

JG.
1

日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F

TEL・FAX 03-3868-3853

男性頸髄損傷者のカウンセリングを振り返って

帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科

道 木 恭 子

今回の症例研究会は、男性頸髄損傷者における性機能障害に対するカウンセリングについて報告する。

身体に障害のある方は、性機能障害をともなうことが多く、性行為、および育児に関する悩みを抱えている。しかし、こうした悩みを相談するために医療機関を受診する人は殆どいない。その理由として、相談することへの抵抗感もあるが、性機能障害の治療・カウンセリングに関する情報不足があげられる。こうした現状から、日本性科学会のご協力のもと、「身体障害者を対象としたセックスカウンセリング」の実施に至った。

まだ、1例だが、男性頸髄損傷者のカウンセリングを実施したので、症例研究会で報告させていただきたい。

症例紹介

S氏 33歳 男性 職業：無職 結婚：未婚

パートナー 無 主訴：勃起、射精がない

障害状況：

第4頸髄損傷。5年前に交通事故により受傷。既往歴なし。

第4頸髄より下の運動麻痺。感覚麻痺。四肢麻痺。

呼吸：自発呼吸があるため呼吸器は使用していない。誤嚥はない。

排尿：膀胱ろう（尿意なし。自排尿なし）

排便：便意なし。失禁あり。週に3回、訪問看護師がベッド上で介助。

自律神経過緊張反射：有

性機能：勃起はたまにあるが、意図的ではない。コントロールはできない。持続はしない。射精無し。オーガズム無し。

生活状況：一人暮らし。同じ敷地内に両親が住んでいる。

全介助のため、24時間体制で男性ヘルパーの介護を受けている。金銭的には、交通事故責任が相手方にある現状では問題なし。

相談内容：

- ・ 受傷してから、意図的な勃起ができなくなり、射精もできない。脊髄損傷に関する本を読んだり、ネットで検索したから、ある程度の知識はあるが、性に関する最新の情報があれば知りたい。
- ・ 障害者でもセックスの手立てはあるだろうが、実際にパートナーができて行為におよんだら、どうすればいいかわからない。
- ・ バイアグラを内服したことはあるが、実際の行為では使ったことがない。内服したら本当にセックスができるのか知りたい。
- ・ オーガズムのない状態をどのように解消できるか。
- ・ 射精介護について知りたい。そこまで対応しているのか？少しでも解消したくてアダルトビデオをみたけど、でもものがでないから、もやもやしたままだった。ネッ

トで、性介護を実施しているところがあるのを見つけて問い合わせしたら、料金は30分3,000円だったが、交通費が2万円以上かかるからあきらめた。

- ・ 精子の温存について知りたい。精子を採取しておく人もいるみたいだけど、パートナーもいないし、手術や維持にお金がかかるから現実的ではないと思う。
- ・ 結婚は厳しいと思うけど、パートナーはほしい。障害者の人が看護師や理学療法士とつきあっている話は聞くが、自分にはそういう出会いがなかった。一般女性でもいいけど、出会うチャンスがない。受傷してから、誰ともつきあったことがない。ネットで障害者の婚活サイトを見つけたので、行ってみようとは思っている。パートナーになる人は、全介助でもいいと思う人がいるのかな。
- ・ 障害者になって、性について気軽に話すことができない（リアルすぎる）。気楽に話せる人がいない。真剣に話せる人がいなし。話せる場がない。
- ・ これからの人生の向き合い方について話を聞いてほしい。

対応：

- ・ 男性脊髄損傷者に起こる性機能障害について、得ている知識を確認し、不足部分について説明した。
- ・ 勃起機能障害については、治療法として①経口治療薬、②勃起補助具、③陰茎海綿体への薬剤注射、④陰茎プロステーシスの挿入について説明した。
- ・ 射精機能障害については、精子の採取方法として、①陰茎バイブレーター刺激による人工射精、②経直腸電気刺激による人工射精、③手術的精子採取法などがあることを説明し、育児を希望する場合は、人工授精、体外受精をする場合があることも話した。
- ・ 脊髄損傷者の精液は精子の濃度及び運動率の低下など、性状が悪化している場合があることから、陰嚢部の体温上昇を防ぐこと、尿路感染症の予防に努めるなど説明した。
- ・ 性行為時の工夫については、体位の工夫、褥瘡予防、尿失禁対策、便失禁対策、セーファーセックスなどについて説明した。
- ・ 自律神経過緊張反射
頸髄損傷者の場合、陰部などの刺激によって自律神経障害による急激な血圧上昇がおこりやすい。発汗、顔面紅潮、気分不快、頭痛などを自覚したらすぐに、安静にするよう指導した。

まとめ

はじめてセックスカウンセリングを実施し、医療者として性に関する情報を提供することと、カウンセリングは異なることを実感し、カウンセリング力に欠けていることを反省した。今後も経験の重ね、障害のある方のセックスカウンセリングができるように力をつけていきたい。

今、私たちに必要なもの—WAS の Sexual Pleasure 宣言2019の意味

ルイ・パストゥール医学研究センター

早乙女 智 子

2007年からここ10数年、世界性の健康学会 WAS (World Association of Sexual Health) やアジア・オセアニア性科学学会 AOFS (Asia Oceania Federation of Sexology) などに出席している。WPATH(World Professional Association of transgender health) がオスロで、WAS がイエテボリで連続して開催されたときに、思い切って両方に参加したのがきっかけだった。英語が苦手な休みや渡航費の工面など苦労はあるが、得るものは大きかった。性に対する国民性の違いや時代の変遷などを英語力を超えて雰囲気を受け取ることができる。最初に出会ったのが、両方に出席していたフランスの Alain Giami 先生で、気難しさとお茶目な兼ね備えた人柄に知らない人ばかりの学会でも安心して、様々な人を紹介してもらったが、この春で定年だそうだ。月日が経つのは案外早い。

私は前回のプラハの WAS 大会のとき、ひょんなことから WAS の理事選に出ることになった。結果は落選だったが、WAS に貢献できることはないかと申し出、学術委員に入れてもらった。今回の WAS では、査読された抄録の採否をランク付けする仕事を頂いた。自分の抄録もまともに書けないのに冷や汗ものだが、大変勉強になった。困ったのは、英語だけではなくスペイン語で書かれた抄録だ。だが、今は翻訳も無料でかなり正確になったようなので、ひたすら翻訳サイトに打ち込んで何とか役目を果たした。

2019年10月にメキシコシティで第24回 WAS が開催された。今年のトピックスは、GAB (Global Advisory Board for Sexual health & wellbeing) のワーキンググループが投稿した論文: Sexual health, sexual rights and sexual pleasure: meaningfully engaging the perfect triangle をもとに宣言された Sexual Pleasure 宣言である。学会長の日系メキシコ人の Matsui 先生、理事長の Noble 先生、そして学術委員長 Giami 先生のサインがあるが、全員男性だったのは残念だった。学会では、口演やシンポジウム、ポスターなど、誰もがまずは自分の持ち場をこなすのに必死だ。私も学術委員枠で30分の発表時間をもらった方がいいが、結局メキシコ入りしてから資料とにらめっこをする羽目になった。宣言文も最後まで話をしながら会場の隅で推敲しているのを目撃した。学会が出すといってもそれは誰かが書き、責任ある立場の人が最後まで文言を練るのだ。そのような場に居られたことは大きな力となった。WAS は決して大きな学会ではないが、その動きは UNAIDS や WPATH などとも関係し、WHO とも連動しているので、今後、この方向で動きがあるだろう。

今年は ICPD のカイロ会議から25年の節目の年であり、来年は北京女性会議から25年の年でもあるということも関係するのか、健康と権利に Pleasure (快楽) が加わるのは今の時代に必要なことである。性の快楽とは決して誰かの犠牲の上に立つようなものではなく、誰もが享受する心地よさや安心の上に成り立つ人生経験上好きなことを意味している。昨今では年齢のダイバーシティにも注意が向くようになったので、思春期や老年期の性の健康・権利・快楽も躊躇なく語られるようになるだろう。

世界性の健康学会・メキシコシティ大会 セクシュアル・プレジャー宣言

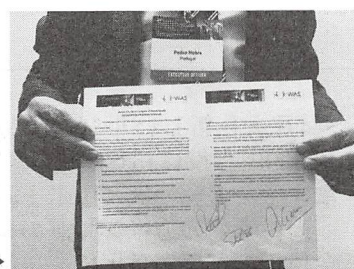
以下を承認する:

セクシュアル・プレジャー (快感・快楽・悦び・楽しさ) とは、他者との又は個人単独のエロティックな経験から生じる身体的および/または心理的な満足感と楽しさのことであり、そうした経験には思考、空想、夢、情動や感情が含まれる。

プレジャーが性の健康およびウェルビーイング (良好な状態・幸福・安寧) に寄与するためには、自己決定、同意、安全、プライバシー、自信、そして性的関係についてコミュニケーションしたり交渉したりするという能力といった要素が重要となる。セクシュアル・プレジャーは、性の権利の文脈で行使されるべきものであり、とくに平等と非差別、自律と身体へのインテグリティ (保全・完全性・統合性) にかかわる権利、望みうる最高水準の健康および表現の自由にかかわる権利が重要となる。人間にセクシュアル・プレジャーをもたらす経験は多様であり、(それゆえに) プレジャーがあらゆる人にとって肯定的な経験でありつつ、他者の人権とウェルビーイングを侵害して得られるものでないことを保障するのが、性の権利である。

以下を宣言する:

1. あらゆる人々にとって、差別、強要、暴力をうけることなく、楽しく安全な性的経験が可能であるということは、性の健康とウェルビーイングの基盤をなすものである。
2. セクシュアル・プレジャーの源にアクセスすることは、人間としてあたりまえの経験および主観的なウェルビーイングの一部をなす。
3. セクシュアル・プレジャーは人権としての性の権利の基盤をなす。
4. セクシュアル・プレジャーには、多様な性的経験をする可能性が含まれる。
5. セクシュアル・プレジャーは、世界中のあらゆる場所において、教育、健康推進、サービス提供、研究、権利擁護 (アドボカシー) に統合されるべきものである。
6. セクシュアル・プレジャーをあらゆる場面に組み込み、個人のニーズ、要望、現状 (リアリティ) にあったものにすることが、究極的には、国際保健と持続可能な開発に寄与することになるのであり、そのために包括的で即時的かつ持続可能な行動が求められる。



サインされた宣言文
のコピーが会場で配
布された

2020・2021年日本性科学会理事選挙結果

この度理事選挙（全国1ブロック）において、下記の通り立候補届けがありました。

（受付順）

永井 敦	高波 眞佐治	石原 理	村口 喜代
菅沼 信彦	大川 玲子	茅島 江子	針間 克己
早乙女 智子	中塚 幹也		

それぞれの立候補者について、立候補資格要件（5名の推薦者、入会以後3年以上）をチェックしすべて適格でありました。

また、立候補者数が定員の枠内でありますので、無投票で全員を当選者と決定致しました。

2020年3月5日

日本性科学会選挙管理委員会

委員	石丸 径一郎	花村 温子
	今井 伸	田中 奈美

セックス・カウンセラー セックス・セラピスト資格認定委員会報告

日本性科学会副理事長（認定制度担当） 阿部 輝夫

本年も日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定更新規定（日本性科学会雑誌に掲載）に基づき、2020年度資格更新が行われます。「資格更新」に関する告示は、6月発行の日本性科学会ニュースに掲載されます。

尚、更新該当者氏名（登録順）は以下の通りです。資格認定更新規定を熟読の上、更新希望者は御準備をお願い申し上げます。また、同時に2020年度新規資格認定に関する告示もニュース6月号で行います。

資格更新該当者

セックス・カウンセラー	藤井 祐美				
セックス・セラピスト	堀口 貞夫	早乙女智子	阿部 輝夫	野末 源一	田中 奈美
	福本由美子	堀口 雅子	及川 卓	今井 伸	

第13回 日本性科学会近畿地区研修会報告

テーマ：性にかかわる支援

研修担当幹事 織田 裕行

2020年2月2日にガクトホール（大阪）で第13回 日本性科学会近畿地区研修会開を催致しました。まず、「きょうとイロ」を立ち上げ、トランスジェンダーの交流会の開催や個別相談を中心として活動されている社会福祉士の真鼻弘美先生にご講演を頂きました。その後、精神保健福祉士の山田妃沙子先生に救命救急センターにおける精神疾患と身体疾患の合併症患者さんへの取り組みを始め、自殺企図者への介入、院内における臓器移植コーディネーター業務を通して見えてきた性差についてご講演頂きました。コメディカルの視点で、かつ地域を意識し日々奮闘されていることが伝わってきました。

その後、佐久間航先生には中絶の受診者さんを孤立させない取り組みについて、今井伸先生にはエゴグラムのセックスセラピーへの応用、坪田優先生には乳癌治療と性生活への影響についてご講演頂きました。処方や処置をしたことをもって「治療は完結した」とするのではなく、受診者を孤独にさせない関係作りを大事にし、熱い思いを持って取り組まれていることが伝

わってきました。

最後に、セックスセラピー、性科学、性科学会に関する歴史的経緯について大川玲子理事長からご教授頂きました。肉声でのご講演を拝聴させて頂くことの重要性を改めて実感し、さらに性科学の発展は国によって浸透していく過程や、その対象とするところが異なることに気づくことができました。

「語り継ぐ」「書き継ぐ」という言葉があります。「語り継ぐ」は時空を超えてつないでいくことを意味し、「書き継ぐ」は書き足すという意味にとどまります。文献化し文字として語り継ぐことも大事なことです。個人の中にある思いやできごとの経緯を語り伝え、語り継ぐことの重要性が感じられた会だったと思います。

本研修会が性に関心を持つ近畿地区の医療従事者、研究者、教員、学生などが集い学ぶ場となり、今後も性科学が発展し続けることを心から願っております。

会費納入のお願い

4月より新しい年度（2020年4月1日より2021年3月31日）にはいりますので、2020年度年会費（一般12,000円 役員15,000円 学生5,000円）の御納入を、宜しくお願い申し上げます。手数料が無料となります学会の郵便振替用紙を同封致しますので、御利用下さい。

尚、学生の方は学生証のコピーを事務局にお送り下さい。学生会員と認められた場合は、改めて学生会員用の郵便振替用紙を送付致しますので、その用紙でお振込みをお願い申し上げます。